

認 定 書

国住指第 1953 号
平成 30 年 10 月 11 日

J F E 建材株式会社
代表取締役社長 久保 亮二 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0177
2. 認定をした構造方法等の名称
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

| 項 目 | 仕 様 |
|----------------|--|
| 床 厚 | 80 以上 |
| 荷重と支持間隔の 関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 支持間隔 2,400 以下の場合 自重を含めた全荷重は 21.79kN/m^2 以下かつ下式から求めた自重を含めた全荷重以下 ・ 支持間隔 2,400～3,600 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗=125.5kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。) |
| 支 持 | 連続支持 |

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

| 項 目 | 仕 様 |
|-----------|---|
| ① デッキプレート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 規 格 JIS G 3352(デッキプレート) ・ 厚 さ 1.0、1.2、1.6 ・ 山 高 さ $75_{\pm 1.5}$ ・ 働 き 幅 300_{-2+8}、600_{-2+8} ・ 形状寸法 別添-5 参照 ・ 種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T(厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3 |
| ② コンクリート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 種 類 軽量コンクリート ・ 呼び強度 21～40 ・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上 |

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

| 項 目 | 仕 様 |
|--------------|--|
| ①ひび割れ拡大防止用鉄筋 | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶接金網 ・規 格 JIS G 3551 ・種 類 1)～4)のうち、いずれか一仕様とする 1) WFP 2) WFC 3) WFR 4) WFI ・線 径 6 以上 ・間 隔 100 以下×100 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30 (2) 鉄筋(異形鉄筋) ・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・断面寸法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30 |
| ②スペーサー | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 鉄線 ・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上 ・間 隔 1000 以下 (2) セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下 |

| 項 目 | 仕 様 |
|-------------------------|---|
| ③梁と床版の 接合方法 | <p>[1] デッキプレート端部梁 頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 $\phi 16$ 以上$\times\phi 110$ 以上 ・間 隔 300 以下 <p>[2] デッキプレート中間部梁 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 焼抜き栓溶接</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直 径 18 以上 ・間 隔 300 以下 <p>(2) 頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 $\phi 16$ 以上$\times\phi 110$ 以上 ・間 隔 300 以下 |
| ④梁とデッキ プレートの接合 方法 | <p>[1] デッキプレート端部梁 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) アークスポット溶接 (2) すみ肉溶接</p> <p>[2] デッキプレート中間部梁 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) アークスポット溶接 (2) すみ肉溶接 (3) なし (焼抜き栓溶接を用いる場合)</p> |

表-1 一般的な支持間隔と荷重

| 支持間隔 (mm) | 自重を含めた全荷重 (kN/m ²) |
|-----------|--------------------------------|
| 2400 以下 | 21.79 以下 |
| 2500 | 20.08 以下 |
| 2600 | 18.57 以下 |
| 2700 | 17.22 以下 |
| 2800 | 16.01 以下 |
| 2900 | 14.92 以下 |
| 3000 | 13.94 以下 |
| 3100 | 13.06 以下 |
| 3200 | 12.26 以下 |
| 3300 | 11.52 以下 |
| 3400 | 10.86 以下 |
| 3500 | 10.24 以下 |
| 3600 | 9.68 以下 |

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=125.5\text{kN}$ 以下であることを確認すること

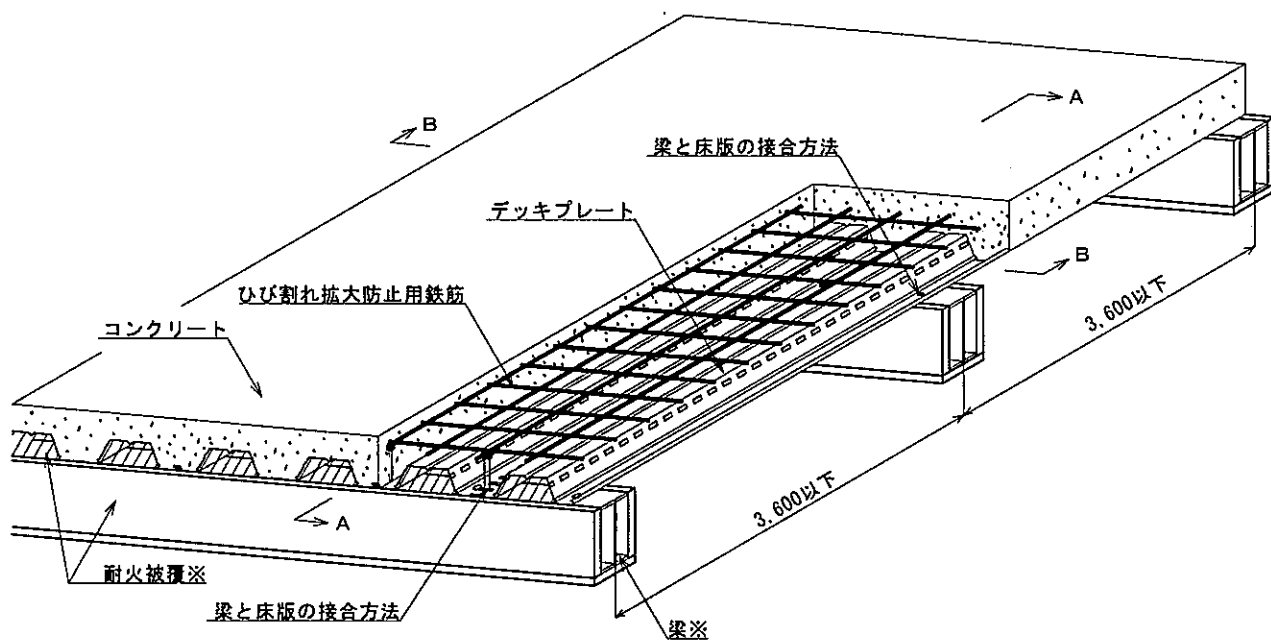
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

4. 構造説明図

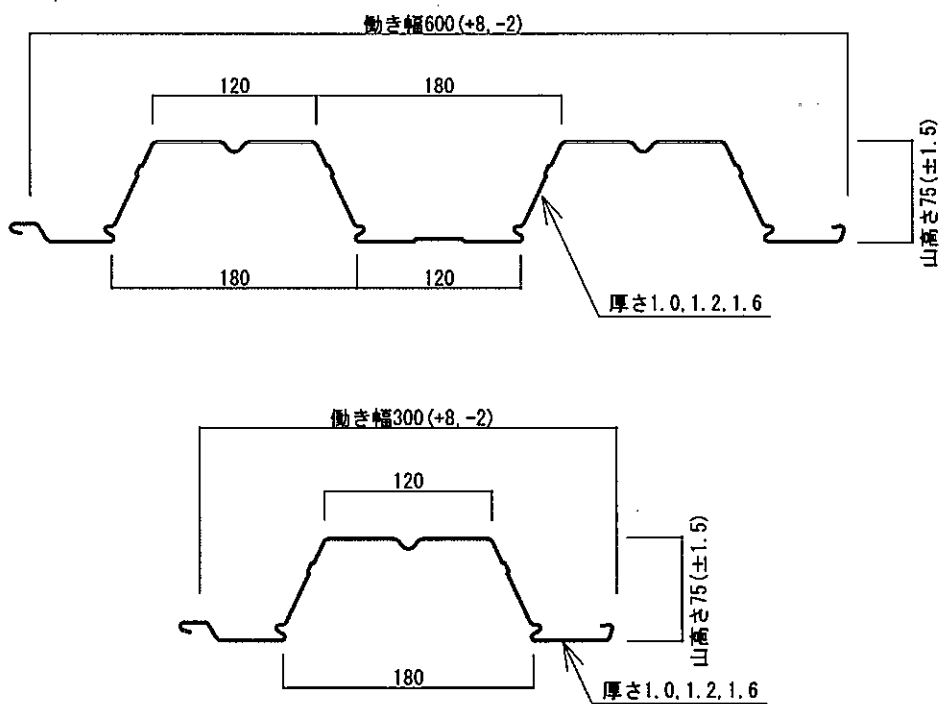
[透視図]

(寸法単位：mm)



[デッキプレートの形状・寸法]

(寸法単位：mm)

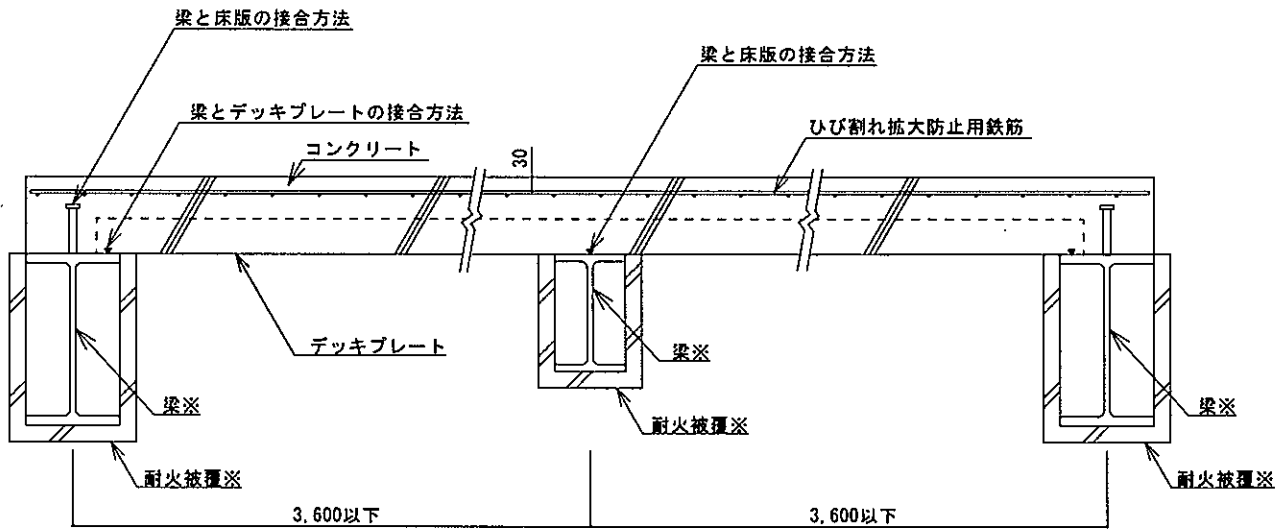


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

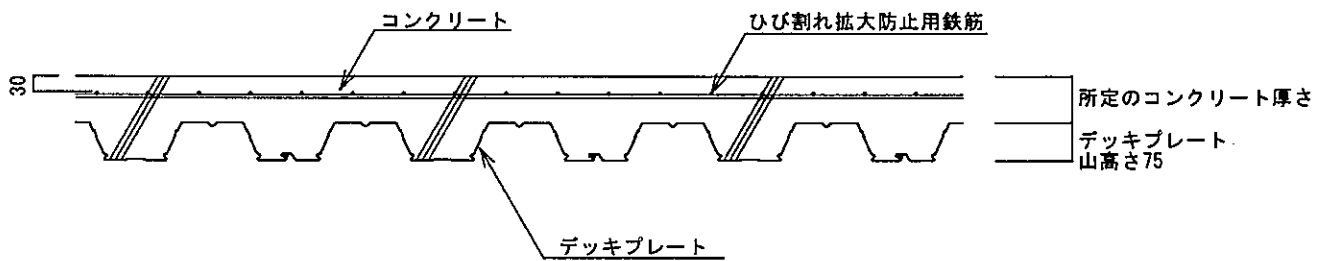
※：本評価内容に含まない

[断面図]

(寸法単位：mm)



A-A 断面図



B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

5. 施工方法等

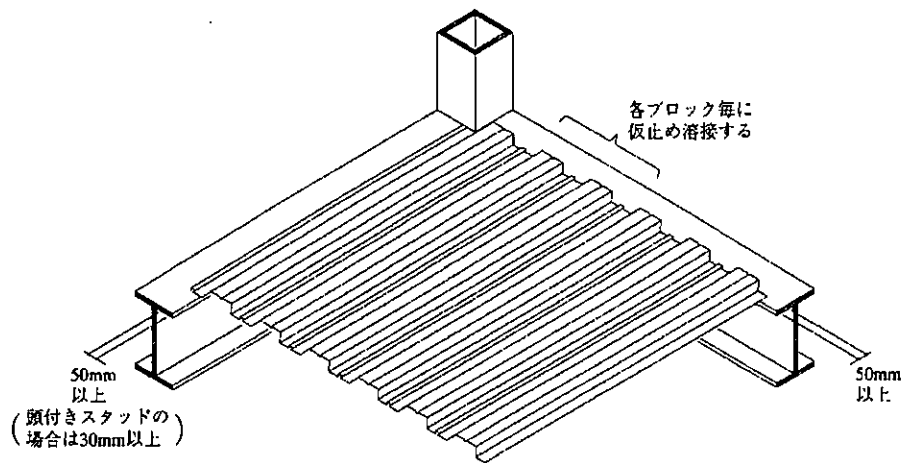
<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔（5～10枚）毎に仮止め溶接する。

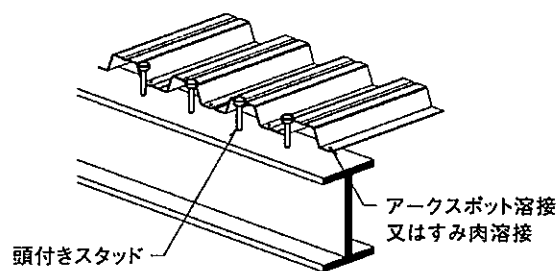


2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブとデッキプレート端部鉄骨梁とは、頭付きスタッドで接合する。

デッキプレートの溝部で頭付きスタッドを接合する場合は、各溝に1本以上接合する。

デッキプレートとデッキプレート端部鉄骨梁とは、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で接合する。



合成スラブとデッキプレート中間部鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接または頭付きスタッドで接合する。

デッキプレートとデッキプレート中間部鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接で接合するか、または頭付きスタッドを用いる場合は、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で接合する。

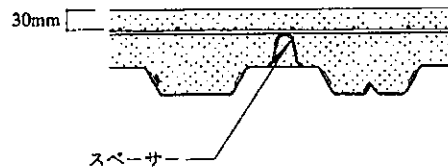
3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。継手位置は、梁上に生じる負曲げモーメントを考慮して継手が梁と平行になる場合は、デッキプレート中間部梁の上以外に設ける。

スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて、特記(例えば、構造評定や性能証明を取得した工法等)によるか、または、JASS5 の記載例による。



5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて行う。

6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

8) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。